

巻頭言



ウィズコロナの時代における補綴歯科 Prosthodontics in the age of coexisting with COVID-19

北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野
口腔機能補綴学教室 横山敦郎

2020年は、まさに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）につきる一年でした。本学会総務担当として、まずは2020年における本学会の会務についてご報告したいと存じます。2月に学会事務局を新橋から芝に移転し、2月14日に新事務局での初めての臨時理事会・委員長会を開催しました。その頃からCOVID-19の影響は全国に及び、4月7日の政府による緊急事態宣言となったことは会員の皆様も記憶に新しいことと思います。本学会は、3月27日の定時理事会を一部対面web併催で行い、同日の委員長会にて129回学術大会を誌上とwebで開催することを決定しました。この後、本学会のほぼすべての会議はweb開催となりました。6月21日に、定時総会をはじめの試みであるハイブリッド参加型で横浜にて開催しました。福岡国際会議場で予定されていた第129回学術大会は、6月26～28日に誌上とwebにて開催しましたが、はじめてのweb開催であったにも拘らず、例年以上の2,397名のご参加をいただきました。大会長の九州大学古谷野先生ならびに準備委員会の皆様のご尽力に心より感謝申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。支部学術大会は、誌上とwebとの併催、さらに一部通常開催を加えた形で開催され、各支部での専門医研修会、生涯学習公開セミナーならびに専門医ケースプレゼンテーションも行われています。例年であれば学術大会時に施行される認定医・専門医試験は、12月13日に全国22の会場で行われ、例年以上の方が受験されました。修練医・認定医・専門医制度委員ならびに各試験場で運営を担当された皆様に厚く御礼申し上げます。2021年の第130回記念学術大会は、東京医科歯科大学の水口先生がご担当され、6月18～20日にWeb、小規模集合型にて開催される予定です。

COVID-19は、上記のように本学会の運営にも大きな影響を与えましたが、会員の皆様におかれましては、臨床、研究、教育、さらには日常生活にも大きな影響を及ぼしていることを実感されていることと思います。4月に厚労省から連絡¹⁾があり、会員の皆様も、検温の実施やパーティションの設置などこれまで以上の感染対策に努力されていることと存じます。欧米では、COVID-19が猛威を振るっていた2020年の春頃には、歯科治療における感染リスクが問題になっていたこともありますが、筆者の渉猟した限りですが、歯科医療を通してのSARS-CoV2の感染は生じておらず^{2,3)}、むしろ受診控えによる症状の重症化などの問題が報告されています⁴⁾。口腔衛生状態を保持することは、口腔における感染防御機構を維持することにも繋がり、SARS-CoV2による感染リスクを低下させることに寄与しているものと考えられます。また、COVID-19の影響によって外出が控えられていることから、高齢者におけるフレイルのリスクは高まるのではないかと考えられます。

欧米ではCOVID-19のワクチン接種が開始されていますが、COVID-19の終息には時間を要し、いわゆるウィズコロナの状態がしばらく続くものと思われます。ウィズコロナの時代において、私たち補綴歯科医は、口腔衛生状態の保持・向上とともにフレイル予防のためにも口腔機能の保持・増進を図ることが求められています。本

学会の草津研究⁵⁾の論文からは、機能歯数が生命予後に関係することが明らかにされており、大川理事長が提唱される「食力の維持向上による健康寿命延伸への貢献」⁶⁾は、ウィズコロナの時代における補綴歯科の使命といえるのではないのでしょうか。

COVID-19 という今までに経験したことのない事態が、突然生じたために手探りで進めてきたこともありましたが、漸く少しずつではあるものの対応がとれるようになってきました。2020 年は、「突然のこと」で「やむを得ない」とされることも多かったと思います。今後は、適切で確実な対応が求められるようになり、その準備をしなければ、「ウィズコロナ」、あるいは「ポストコロナ」の時代には生きていくことができないのかもしれない。

最後になりましたが、突然の COVID-19 拡大という状況下におきまして、会員の皆様に多大なご協力・ご支援をいただきましたことを学会総務担当として深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) <https://www.mhlw.go.jp/content/000620324.pdf>
- 2) Meng L, Hua F, Bian Z. Coronavirus Disease 2-19(COVID-19): Emerging and Future Challenges for Dental and Oral Medicine. J Dent Res 2020; 99: 481-487.
- 3) <https://www.jda.or.jp/publicity/newspaper/pdf/ns20200501-15.pdf>
- 4) 例えば http://www.hoken-i.co.jp/outline/20200811_covid19AK-part3.pdf
- 5) Maekawa K, Ikeuchi T, Shinkai S, Hirano H, Ryu M, Tamaki K et al. Number of functional teeth more strongly predicts all-cause mortality than number of present teeth in Japanese older adults. Geriatr Gerontol Int 2020; 20: 607-614.
- 6) 大川周治. 健康寿命延伸への貢献に向けて. 日補綴会誌 2019; 11: 177-178.